

## 日本鉄鋼協会記事

### 日本鉄鋼協会第40回通常総会、第49回講演大会 本会創立40周年記念大会報告

#### 概 況

本会は本年を以つて創立第40周年を迎えたので、予てより計画し既に発表したプログラムにより、東京において4月5日より9日まで5日間に亘り、常例の第40回通常総会、第49回春季講演大会と同時に、記念特別講演会、創立第40周年記念式、祝賀懇親会を挙行政した。出席受付会員総数452名の多数に上つて盛況を呈し、大会の行事は順調に進行した。その概況を日程を逐つて記せば次の通りである。

#### 第1日 4月5日(火曜)特別講演会

会場 東京大学工学部2号館大講堂

連日の雨霽れて、久方振りの好天気となつた。午後3時半の定刻に先立ち会員続々参集、初めに沢村会長より本日の講師独逸鋼鉄協会会長、アーヘン工業大学教授、Hermann Schenck 博士紹介の辞があり、次で教授起つて日本鉄鋼協会40周年に対する祝辞を述べられた。次に沢村会長より、評議員会の決議により教授を本会名誉会員に推薦する旨を述べて推薦書を贈呈した後、懇々教授の講演に移つた。演題は“製鉄業における熱慮とその断行”(Wissenschaft und Wagemut in der Eisenindustrie)であつて、滔々2時間(森政次氏通訳)に亘る教授の熱弁は聴衆一同に深い感銘を与えた。(講演内容の詳細は40周年記念号に掲載の予定)終つて沢村会長の謝辞があり、午後6時閉会した。

次で午後6時半より教授歓迎の懇親会を学士会館に於て開催、独逸大使館よりも代理大使外教氏出席せられ、本会より会長、副会長、前会長、理事、監事の諸氏参加、晚餐を共にして懇談を重ねた。

#### 第2日 4月6日(水曜)講演大会第1日、通常総会、祝賀式、祝賀懇親会 講演大会

会場 東京大学工学部2号館

定刻8時45分振鈴にて一同の着席を待ち、沢村会長の開会の挨拶があり、直ちに4会場に別れて夫々講演に移つた。本日の講演総数52。

#### 第40回通常総会

午後3時半、入理事開会を宣し、初めに沢村会長の開会の辞があり、次で議事に入り、初めに改選評議員50名の選挙を行い、次に、三井理事の会務報告、俵理事の会計報告、石田監事の監査報告があつて後、次の通り改選評議員の選挙結果報告並びに監事選任(評議員会にて選挙)報告があり、議事を終つた。

評議員(半数改選) 以下敬称略

浅田 長平	青木不二男	足立 彰	池ヶ谷頼緒	伊藤 正夫	石田 稔	上野建二郎
梅津 七蔵	遠藤勝治郎	岡村 武	大河原栄之助	大谷米太郎	嘉村 平八	香春三樹次
桂 弁三	川端 駿吾	川上 義弘	木村 音吉	菊池 浩介	絹川武良司	葛 誠四郎
桑田 賢二	幸田 成康	佐藤 知雄	斎藤 省三	斎藤 弥平	佐々川 清	里村 伸二
里井孝三郎	西郷 吉郎	島村 哲夫	須永己代次	角野 尙徳	滝沢 工	永野 重雄
西村 秀雄	錦織 清治	平岡 正哉	広田 寿一	増本 量	町永 三郎	的場 幸雄
宮下格之助	室井嘉治馬	望月 要	毛利猷三郎	山田良之助	山野上重喜	柳 武
渡辺 義介						

監 事(半数改選)

志村清次郎

続いて表彰式が挙行政され、沢村会長より下記諸氏に夫々表彰状並びに賞牌、賞金を贈呈し、式を閉じた。

服部賞	賞牌	園田 一夫				
	賞金	川端 駿吾	堺 千代次	中島 登二	小菅 高	
香村賞	賞牌	植山 義久				
	賞金	藤山 忠造	豊島 清三	大浜 侃	堀田 美之	
俵 賞	賞金	石原 重利				
	賞金	井上 勝郎	加藤 信			
渡辺賞	賞牌	松本 茂樹				

賞金 吉田 道一 小野 一男

## 第 40 周年記念祝賀式

午後4時30分より本会創立第40周年記念祝賀式が挙行された。最初に沢村会長の式辞があり、次で名誉会員推薦の披露(評議員会推薦)があり、引続き沢村会長より製鉄功労者に表彰状並びに製鉄功労賞、又協会事業功労者並びに永年勤続者に夫々表彰状並びに記念品を贈呈した。その都度全堂に拍手湧き、参列者一同満腔の祝意を表した。

## 名誉会員(敬称略)

- 浅田 長平 (株式会社神戸製鋼所社長)  
 石原 米太郎 (特殊製鋼株式会社々長)  
 川上 義弘 (元陸軍中将元本会理事、関西支部長)  
 河田 重 (日本鋼管株式会社々長)  
 永野 重雄 (富士製鉄株式会社々長)  
 松下 長久 (本会前会長)  
 村上 武次郎 (東北大学名誉教授、本会東北支部長)  
 渡辺 義介 (八幡製鉄株式会社々長、日本鉄鋼連盟会長)  
 J. Chipman (米国 Masachusetts 大学教授)  
 T. L. Joseph (米国 Minnesota 大学教授)  
 H. Schenck (西独アーヘン工業大学教授、独逸鉄鋼協会々長)

## 製鉄功労者

- 伊藤 隆吉 (富士製鉄株式会社副社長、本会前会長)  
 角野 尙徳 (八幡製鉄株式会社副社長、本会九州支部長)  
 田中 清治 (東京大学名誉教授、本会前会長)  
 三島 徳七 (東京大学名誉教授、本会前会長)  
 山岡 武 (日本製鉄株式会社代表清算人、本会前会長)

## 協会事業功労者

- 芥川 武 (東京大学教授、本会理事)  
 内川 悟 (富士製鉄株式会社取締役、本会前理事)  
 菊池 浩介 (日本鋼管株式会社富山電気製鉄所長、本会前理事)  
 佐藤 忠雄 (国有鉄道技術研究所鑄鍛室長、本会前理事、常務委員)  
 志村 清次郎 (三菱鋼材株式会社常務取締役、本会監事)  
 俵 信次 (太平金属工業株式会社々長、本会理事)  
 西村 吉太郎 (八幡製鉄株式会社技術部、本会常務委員)  
 吉崎 鴻造 (東洋鋼板株式会社企画部長、本会常務委員)

## 永年勤続者(15年勤続)

- 砂門 喜苦 (本会事務局員)

次いで石橋通商産業大臣(代理)、渡辺日本鉄鋼連盟会長(代理)、的場日本金属学会々長の祝辞があり、又宗宮日本分析化学会々長よりの祝辞披露があつた。

## 通商産業大臣祝辞

## 祝 辞

本日社団法人日本鉄鋼協会創立四十周年記念祝賀式にあたり一言祝辞を述べる機会を得ましたことは私の心から喜びとするところであります。

顧みますればわが国の鉄鋼業は創業以来年と共に進歩の跡を示して来たのでありますが、特に戦後の十年間においては敗戦直後の麻痺状態から着々と復興の気運を盛上げ、昨年には普通鋼材五百二十六万トンという戦前戦後を通じての最高生産高を示し、また輸出についても百二十万トンの輸出量を確保するにいたり、生産規模の面で顕著な発展を記録致しますとともに設備の近代化、生産技術の向上その他企業の合理化の面でも目覚ましい成果が見られ、高炉におけるコークス比、平炉における燃料原単位等世界の最高水準に達しましたことは、まことに御同慶に堪えないところであります。この間日本鉄鋼協会はわが国における鉄鋼に関する學術および技術の研究の中核としてまた内外技術交流の中心として活躍して参られたのでありまして、特に生産現場と直結して技術の研究振興をはかり、就中戦後導入された管理技術の発達に大きな貢献を致されましたことに対し心から敬意を表するものであります。日本の製鉄技術は諸先輩及び既に鉄鋼業に従事する人々の御努力により今日このように改善されたのでありますが、反面外国技術に負うところも少なしと思われるのであります。今後日本の鉄鋼業は単に我国の基礎産業としてのみではなく、あらゆる点においてその国際性を注目されている折柄、従来の優秀な成果を更に一步を進めて独創的技術の確

立発展をはかり、国際的技術水準の向上に貢献せられるよう念願する次第であります。  
将来伸び行く日本鉄鋼業のために日本鉄鋼協会の発展を願つて祝辞といたします。

昭和三十年四月六日

通商産業大臣 石 橋 湛 山

### 日本鉄鋼連盟会長祝辞

祝 辞

本日茲に社団法人日本鉄鋼協会の創立四十周年記念祝賀式が取り行われるに当りまして一言御祝辞を申し上げます。惟うに貴協会は大正四年二月初代会長野呂景義工学博士のもとに我国鉄鋼業の発達を助成する目的を以つて業界は勿論各方面の大いなる期待を担はれて創立されましてより、ここに本年を以つて四十周年の輝かしい記念日を迎えられることと相成りました。洵に目出度くわが鉄鋼業界を挙げて衷心よりお慶びを申上げる次第でございます。この間貴協会に於かれましては会誌其の他の刊行物の発行、講演会及び見学会の開催、研究部会の設置、日本鉄鋼標準試料の頒布、表彰及び奨励事業の実施、委員の外国派遣等幾多の有意義なる事業を重ねられ、わが国鉄鋼業の進歩発展に多大の寄与を致されたのでありまして、その御功績の大なることは今又更めてここに申上げる迄もないところでありますと共に、又私共の日頃感謝致し心から敬服申上げて居るところでございます。

茲に歴代会長を初めそのもとに終始一貫、斯業の発展に尽瘁せられました各位の御功績に対しまして更めて満腔の敬意を表すると共に、貴協会が今後共に愈々隆盛に赴かれわが国鉄鋼業の振興と発展に益々貢献されんことを希望致しまして甚だ簡単ではございますが祝辞と致します。

昭和三十年四月六日

日本鉄鋼連盟 会長 渡 辺 義 介

### 日本金属学会々長祝辞

祝 辞

本日茲に日本鉄鋼協会創立四十周年記念式が挙行せらるるに当りまして一言お祝いの言葉を申上げる機会を得ましたことは兄弟の学会といたしまして最も光榮とする処であります。

かえり見まするに貴会が発足せられましたのは日露戦争後十年、大正四年と承つて居りますが、当時において我が国の学問も産業もなお揺籃の時代でありました。即ち鉄鋼の内地産額について見ましても銑鉄三十二万屯、鋼材三十四万屯でありましたから、これを今日の量と質に比べますと、真に今昔の感に堪えません。爾来四十年貴会は常に斯界に指導的立場を堅持され且つ見事にその役割を果して来られたのでありまして、その輝き功績は特に不滅のものと云うべきであります。吾が金属学会は貴会とは最も密接な間柄でありまして今日創立四十周年を迎えられました貴会の歩みを想いますときに一人の感慨を禁じ得ません。

私たちは常に貴会を最も敬愛すべき先蹤者として進んで参りましたが、今後も益々深き友愛と協力をもつて斯学の進歩と工業発展のため相携えて努力したいものと念願致して居ります。

この祝典に当り貴会の愈々旺盛なる御発展を希い祝辞と致します。

昭和三十年四月六日

社団法人日本金属学会 会長の 的 場 幸 雄

かくて祝賀式は午後5時半無事閉会となつた。本日の参会者は300余名に上り、頗る盛会であつた。

### 第40周年記念祝賀懇親会

上野精養軒において、午後6時半より祝賀懇親会を開催した。開会に先立ち庭前において参会者一同の記念撮影を行い、次いで食堂に入り卓に就いた。今夕は特に商工大臣、日本鉄鋼連盟会長、関係学協会々長、長老、名誉会員、表彰者等に招待状を發した。参会者140名、非常な盛況であつた。先づ沢村会長の開会の挨拶があり、次で桂弁三氏乾杯して晚餐が開始された。その間佐藤まつ子一行の日本民謡の余興があり、興を添えた。デザートコースに入つてから、井上匡四郎、村上武次郎、石原米太郎、浅田長平、三島徳七、園田一夫諸氏のテーブルスピーチがあつて、最後に伍堂卓雄氏の万歳三唱があり定刻を過ぎた9時、頗る盛会裡に散会した。

第3日 4月7日(木曜) 講演第2日

昨日に引続き講演大会を開催した。本日の講演数 69

第4日 4月8日(金曜) 工場見学第1日

日本金属学会と共同で見学会を行つた。午前と午後を亘り本日の見学工場数 20 見学者両学会を合せ 515 名

第5日 4月9日(土曜) 工場見学第2日

本日の見学工場数 8 見学者総数 173 名。

昭和 30 年度第 4 回理事会 日時: 30—5—6 (金) 17:00—19:30. 会場: 協会々議室. 出席者: 沢村会長, 蜂谷副会長, 入, 河上, 俵, 三井(代), 山内各理事. 志村監事, 三島, 山岡, 田中各前会長. 俵, 西村, 橋口, 毛利横山各常務委員, 橋本事務局長.

報告事項: I 第 2 回編集委員会の件 (別掲) II 記念大会の件. III 企画委員会の件. IV 本年度秋季大会の件. V 関西支部補助金交付の件. VI JIS 原案作成依頼金受領の件. VII 日本工学会々長推薦及び理事学会選挙の件. VIII 大河内記念賞受賞者の件.

協議事項: I 「鉄と鋼」総目録 (過去 20 年間) 編集の件—編集のことゝし編集委員会に委任のことに決定. II 第 5 回品質管理大会参加の件—参加承認. 委員熊沢淳, 田鍋力. III 東海支部補助金交付—交付のことに決定. IV 鉄鋼標準試料分譲価格の件—値上げのことに決定. V シェンク協士講演テープレコードの件—コピーを取り, 希望者に貸与方承認. VI 3 月及び 4 月中入, 退会者その他会員異動の件—承認. VII 3 月及び 4 月中収支決算の件—承認.

昭和 30 年第 2 回編集委員会 日時: 30-4-22 (金) 16:30~20:00 会場: 協会々議室. 出席者: 芥川理事外 7 名

報告事項: (1) 昭和 30 年 4 月号は 4 月 10 日完成発送済 (2) 5 月号は 5 月 5 日迄に完成の予定. (3) 6 月号は 5 月末完成の予定.

協議事項: 1. 40 周年記念号を 7 月号とするの件—6 月号の予定なりしも依頼原稿の内 1, 2 未着の為 7 月号とす. 2. 記念号原稿の内分析に関する邦文表を英文とするか否かの件—邦文のまま. 3. 国際標準化機関 (ISO) からのマイクロピイの透明生地寸法に關し文部省からの照会に關する件—申し越しの通り異議なしの旨回答のこと. 4. 交換誌の件 (1) 分析化学 (2) 金属物理 (3) 浮選 (4) ソ連のスターリン—浮選を除き交換のこと. 5. 鉄と鋼, 寄贈依頼の件—(1) 海外機械輸出振興委員会より—寄贈のこと. (2) 韓国世界理工社より—購入して貰うこと. 6. 寄稿論文審査の件—速に委員分担審査のこと. 7. 国際文化会館より翻訳問題に關し照会の件—論文の全訳要求に應ずる為めの対策を願いたしの旨回答のこと.

### — 寄 贈 図 書 —

書 名	著者または編者	定価	発行所	寄贈者	寄贈月日
国産ニッケル) 品質と 実用性)	B5 p.254 工業技術ニッケル技術委員会	非売	—	工業技術院	30.1.4
英独和 独英和金属 工学辞典	B6 p.675 金子 恭 輔	650円	鉄鋼新聞社	著 者	30.2.15
東北の石灰石資源	B5 p.277 東北地方石灰石調査委員会	非売	左 = 同ジ	内ヶ崎贊五郎	30.4.2
金属術語辞典	p.346 大和久重雄・寺沢正雄	580円	アグネ出版社	アグネ出版社	30.5.19

### — 新 刊 紹 介 —

#### 最近に於ける平炉製鋼法の進歩

(鉄鋼技術共同研究会製鋼部会報告書)

頒価 650円. 送料80円

この程上記の報告書が限定版で出来上りましたので御入用の方は至急協会宛御申出下さい。

## 日本鉄鋼協会第40回通常総会に於ける表彰者 (昭和30年4月6日)

(第25回服部賞受領者推薦理由書  
第22回香村賞受領者推薦理由書)

### 服部賞牌受領者

(製鉄技術の進歩向上)

富士製鉄株式会社取締役釜石製鉄所長

工学士 園田一 夫君

君は大正10年九州帝国大学工学部冶金学科を卒業、直ちに官営八幡製鉄所入所、鋼材圧延の作業に従事し、特に重軌条、大形鋼圧延を担当して、ロール孔型、新品種の製作等、圧延技術の向上に努め、次で日本特殊鋼管戸田工場長として油井管、特殊鋼管の品質改善に当り戦後日本製鉄株式会社川崎製鋼所長として同所の復旧を初めとし、帯鋼の品質向上、増産、更にボイラー用帯鋼の研究に従い、更に昭和28年6月以降富士製鉄株式会社釜石製鉄所長として同所の能率的操業と製品の品質向上に努め、特に日の浅い軌条の圧延を指導し、最近においてはキャタピラ圧延に成功する等約34年の永きに亘り終始鉄鋼業界にあつて製鉄技術水準の進歩向上に寄与した功績は顕著である。

よつて同君は服部博士記念資金取扱規則第7条により服部賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

### 服部賞金受領者

(鋼塊用鑄型に関する研究)

久保田鉄工株式会社常務取締役技師長

工學博士 川端 駿吾君

君は大正13年九州帝国大学工学部冶金学科を卒業し、その後久保田鉄工所に入所、鑄物工場主任、鑄物研究部長を担当、次で尼崎製鉄株式会社に転じて製鉄所建設を担当し、製鉄所長となり更に久保田鉄工所に復帰し今日に至っている。その間君は主として鋼塊用鑄型の研究に従い、種々の実験を基礎とし、各種の鑄型にそれぞれ最も適した材質、即ち化学的組成及び組織等を見出し、これにより原料銑鉄の選択、鑄造法等を定め、さらに使用条件、鑄型の大きさ等に応じて最も適当な形状肉厚等を理論的に見出して耐用度の高い鑄型の製造に成功した。

又この研究の結果によりダクタイル鑄鉄が鑄型材として極めて適切であることに着目し、ダクタイル鑄鉄製鑄型生産に大きな努力を払い、その結果マグネシウムによ

第18回俵賞受領者審定書  
第17回渡辺賞受領者推薦理由書

り、低廉でしかも安全かつ確実にダクタイル鑄鉄製鑄型を製出する方法を提案した。

かくの如く同君の鑄型の研究に対する功績は多大である。よつて同君は服部博士記念資金取扱規則第8条により服部賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 服部賞金受領者

(鋼板製造技術並に作業の改良及び發達)

日本鋼管株式会社鶴見製鉄所圧延部長

工學士 中島 登二君

君は昭和5年3月早稲田大学理工学部機械工学科卒業同年10月鶴見製鉄造船株式会社に入社、昭和15年同社の合併に従い日本鋼管株式会社に移り、19年2月同社鶴見製鉄所圧延課長、27年4月同製造部長、30年1月、圧延部長となり現在に至っている。

この間昭和8年国際情勢より鋼板需要急増の際は中板簿板工場建設の企画立案設計を行い、極めて短期間にしかもほとんど同時に三工場の建設を完了して新需要に即応した。昭和26年渡米帰朝後は、厚板工場に既設の三重圧延機を粗圧延機に使用し、仕上圧延機には四重圧延機を新設することにより日本の現状に応じた厚板圧延設備の更新を行つた。一方、特殊広巾簿板製造法を考察しわが国鉄鋼界の現有設備では製造不可能であつた巾6ft以上の長大簿板の製造を可能にした。また不銹鋼鋼板製造において不可欠であつた鍛造工程を省略し大型鋼塊から直接圧延する方法を研究し、之に成功した。上記の通り君は終始鋼板製造の第一線に立ちその製造技術の向上、製品の歩留、品質の改善に対する功績は多大である。

よつて君は、服部博士記念資金取扱規則第8条により服部賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 服部賞金受領者

(熔鋸炉操業技術の改善及び向上)

八幡製鉄株式会社八幡製鉄所製鉄部第一製鉄課長

工學士 小菅 高君

君は昭和13年3月大阪帝国大学工学部冶金学科卒業直ちに八幡製鉄所に入職、昭和18年以来同所戸畑、東田、洞岡各熔鋸炉掛長を歴任、昭和25年10月製鉄部第一製鉄課長となり現在に至っている。

この間終始一貫溶鋳炉操業の改善、技術の向上に努力した。すなわち昭和 15 年には東田第 1 溶鋳炉において大型溶鋳炉による本邦最初のフェロマンガンの吹製を行い、終戦前後の多難な時期には東田、洞岡溶鋳炉掛長を兼務して当時の困難な溶鋳炉を守り、また昭和 25 年東田第 3 溶鋳炉のパンキング再開に当つては新しく炉内掻き出しによる火入れの新機軸を生み出した。昭和 25 年製鉄部第一製鉄課長就任以来特に原料処理に留意し生産コストの低下、溶鋳炉操業技術の改善、品質の向上に尽力した。昭和 28 年 11 月東田第 6 溶鋳炉において灰分 13% のコークスを使用してコークス比 0.695 の世界的好記録を生み、29 年 11 月には鋳物鉄、低銅鉄、製鋼鉄の吹製を行いながらコークス比東田平均 0.695 特に第 6 溶鋳炉は 0.644 の優秀な成績をおさめた。また鉄鉄の品質面においても各種の特殊鋳物鉄の吹製方式を確立し、特に 28 年 7 月以降ノジュラー用鉄の製造に成功した。

以上の如く君の我国製鉄技術の発達に対する貢献は大である。

よつて同君は服部博士記念資金取扱規則第 8 条により服部賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 服部賞金受領者

(溶鋳炉操業技術の改善)

住友金属工業株式会社小倉製鉄所製造部製鉄課長  
堺 千代次君

君は大正 6 年 4 月八幡製鉄所製鉄課に勤務以来 30 有余年の永きに亘り、高炉技術の向上のため努力し、昭和 26 年 1 月、小倉第 2 溶鋳炉が再開せられるや、その豊富な経験と卓越せる技術により不備な設備を改善整備し、未経験な部下を指導する等、不利な条件をよく克復し、順調な吹入を行い、安定操業の基礎を固め、実際製鉄作業における最高の経済的操業を目指して技術的に又設備的に積極的な研究を重ね、之に出鉄量の増強、コークス比の低下及び品質向上のため種々の操業技術の改善を着々と実施し、その結果低銅鉄吹製という厳格な条件にも拘らず、昭和 28 年 12 月からコークス比 0.6 台を維持するという良好な成果に先鞭をつけるに至つた。

以上の如く君の溶鋳炉操業技術の改善に対する貢献は多大である。よつて同君は服部博士記念資金取扱規則第 8 条により服部賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 香村賞牌受領者

(最新式製鋼設備の建設並に製鋼技術の改良)

川崎製鉄株式会社千葉製鉄所副工場長  
兼同製鋼部長兼同運輸部長  
工学士 植山 義久君

君は大正 15 年 3 月早稲田大学理工学部採鋳冶金科卒業後、川崎造船所製鋳工場に入社、爾来 30 年終始一貫製鋼部門にあり、現在、取締役役に就任すると共に千葉製鉄所副工場長兼同製鋼部長兼同運輸部長の職にある。

この間、製鋼技術の発達に鋭意研究努力し、良質の高級仕上鋼板及び各級珪素鋼板の製鋼技術を確立した。戦後鉄鋼調査団の一員として渡米し平炉の実際操業の面を担当し、本邦平炉工場で早急に取上げるべき問題として高発熱量の燃料の使用、炉各部の保温、気密を完全に行うこと、酸素製鋼、計器の再整備、製品に適した鋼種(脱酸方式)の研究、毎出鋼後の樋の取外し、耐火材料の品質の向上、鋼中の銅の低下を挙げ、同社葺合工場において着々実行に移し、更に昭和 26 年同社が千葉市に鉄鋼一貫工場の建設に着手するや、原料運搬方法、建屋配置、平炉の構造、造塊方法及び起重機種の型式等は近來劃期的発達を遂げた米国の方式を採用し之に独自の創意を盛り斬新な設計を行い、当初想定された成績を挙げている、以上我国の製鋼技術の発達に対する君の貢献は顕著である。

よつて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第 4 条により香村賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

### 香村賞金受領者

(鋼材の変形抵抗に関する研究及びその実用化)

八幡製鉄所技術研究所第二鋼材庄延課長  
工学博士 豊島 清三君

君は昭和 12 年東京帝国大学工学部機械工学科卒業と同時に八幡製鉄所に入社、工務部及び監理部勤務を経て昭和 20 年 12 月技術研究所物理研究課金属材料掛長、25 年 4 月同材料研究課長、27 年 12 月同第二鋼材研究課長となり現在に至つている。

この間工務部及び監理部にあつてはコークス炉ガスによる圧縮ガス自動車の実用化、低質炭の有効利用のためのクレマー式燃焼法の研究、鋼材加熱炉の設計改善、80t タルボット炉、特殊平型焼鈍炉の設計を行つた。特に技術研究所に転じてよりは鉄鋼の塑性研究に当り、鋼材の変形、変形抗力の基礎研究を行い鋼材加工の際の基本的特性を究明した。

一方庄延機に作用する庄延荷重、庄延トルクの測定装置を完成、製鉄所内各種庄延機の庄延荷重、変形抵抗等を実測し、庄延機の設計及び作業上の参考資料を提供し

た。また四段変速特殊試験圧延機を完成し、熱間、冷間圧延における変形抵抗特性の究明、圧延疵発生防止の研究を行つた。更に鋼材を高速度で熱間または常温加工する場合の降伏応力、破壊応力、表面疵発生限界を明かにするため特殊設計による高速度引張及び圧縮試験機を完成した。以上君の鋼材の変形抵抗に関する研究及びその実用化に対する貢献は多大である。

よつて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9条により香村賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 香村賞金受領者

(延性鑄鉄製鋼塊鑄型の完成)

株式会社神戸鑄鉄所取締役技師長  
堀田 美之君

君は昭和9年3月秋田鉱山専門学校冶金科卒業後直に合名会社神戸鑄鉄所入社、昭和15年同社の組織変更により株式会社神戸鑄鉄所取締役に就任、技術部長、神戸工場長、播磨工場長を歴任、昭和29年取締役技師長となり現在に至つている。

この間終始一貫鋼塊鑄型の製造技術の改良進歩に力を尽した。特に終戦後は日本鉄鋼協会鑄物研究部会の委員として我国の普通鋼塊鑄型を今日の水準にまで高めるに力があつた。また昭和27年以降極めて優秀な延性鑄鉄製鋼塊鑄型製造の工業化に、外国に先んじて成功した。更に最近共晶黒鉛鑄鉄(S-H鑄鉄)を研究し、これによる鋼塊鑄型の工業的製造の研究を行いつつある。以上の如く同君の鋼塊鑄型製造法の改善に対する功績は多大である。

よつて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9条により香村賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 香村賞金受領者

(ブリキの品質向上)

東洋鋼板株式会社下松工場第二製造課鍍錫係長  
藤山 忠造君

君は大正11年3月萩市立実業補修学校卒業、昭和9年5月東洋鋼板株式会社に入社、養成工として日本製鉄株式会社八幡製鉄所において乾式鍍錫技術を習得帰社後引き続き鍍錫作業に従事、昭和22年鍍錫係長を命ぜられ今日に至つている。

経歴の示す如く、君は東洋鋼板株式会社創立と同時に入社、創業当初の困難な条件の下に、鍍錫作業の幾多の欠陥の研究改善に努力し、着々と成果を挙げ、遂に今日の鍍錫技術の水準に達せしめた。その間約21年日夜鍍

錫機と共に暮し、直接鍍力板の品質に影響を及ぼす微妙な鍍錫技術の改善に力を尽した。特にデビスフイダーの改造、フラックス焼、錫剥げ黄色模様の研究、錫原単位の節減、鍍錫量分布の均一性の向上等に対する功績は多大である。

よつて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9条により香村賞金を受ける資格充分なることを認める。

### 香村賞金受領者

(鋼管亜鉛メッキ装置の完成)

日本鉄板株式会社本社技術部次長兼大阪工場技師長  
大浜 侃君

君は昭和10年3月福井高等工業学校機械科卒業後直に呉海軍工廠砲熷部入廠、終戦後不二精機製造所製造部長を経て、昭和21年大阪鉄板製造株式会社に入社技師長となり、昭和28年同社と徳山鉄板株式会社の合併により、日本鉄板株式会社技術部次長兼大阪工場技師長となり、現在に至つている。

この間、大阪鉄板入社当時同社の旧式亜鉛メッキ設備の全面的設計変更により亜鉛鉄板の質の改善、生産量の増大を行つた。昭和25年同社東京工場に新設の鋼管の全自動式亜鉛鍍金設備の設計製作に当り、昭和26年同設備を改良して鋼管亜鉛メッキ装置を完成した。これは「亜鉛鍍鋼管の内面仕上法」の発明によるもので、同装置は極めて劃期的、独創的なものである。

上記の如く君の鋼管亜鉛メッキ装置の完成に対する功績は多大である。よつて同君は香村博士寄贈資金取扱規則第9条により香村賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 俵賞受領者

学術優秀論文

リミングアクションについて (I)

(会誌「鉄と鋼」第40年第4号第5号掲載)

八幡製鉄株式会社渉外部  
工学士 石原 重利君

技術優秀論文

スチーフエルマンネスマン式穿孔機による  
製管法の研究 (V)

(会誌「鉄と鋼」第40年第5号掲載)

日本特殊鋼管株式会社製造部副長  
工学士 井上 勝郎君  
管理部研究課  
加藤 信君

## 渡 辺 賞 牌 受 領 者

(特殊鋼製造並びに鋳鋼ロール製造の技術改善)

日本製鋼所室蘭製作所製鋼課長

工学士 松本 茂樹君

君は昭和8年3月東京帝国大学工学部冶金学科を卒業後直ちに日本製鋼所に入社、室蘭製作所に勤務、戦後一時広島製作所に転じたが昭和27年再び室蘭に戻り現在に至っている。

その間、室蘭製作所においては酸性平炉、塩基性平炉による特殊鋼の製造に専心し、塩基性平炉と酸性平炉の合併法によつて低磷材料不足対策に成功した。広島製作所においては鋳鋼、鋳鉄鋳物製造に従事したが、昭和27年室蘭復帰後渡米して U. E. 会社において鋳鋼ロール製造技術を体得し、その技術を我が国に伝えたのみでなく更に之を改善した。

この間鋳鋼のみでなく鍛鋼用大型鋼塊の製造にも欧米式溶解法を採用し、製品合格率を著しく高めた。

上記の如く、大型特殊鍛鋼用鋼塊及び鋳鋼ロール製造の実際作業改善に対する君の貢献は顕著である。

よつて同君は日本特殊鋼株式会社寄贈資金取扱規則第4条により渡辺賞牌を受ける資格充分なるものと認めらる。

## 渡 辺 賞 金 受 領 者

(特殊鋼の技術向上)

日本鉄鋼連盟調査局技術課長

工学士 吉田 道一君

君は昭和16年3月東京帝国大学工学部冶金学科卒業直ちに中央航空研究所に勤務特殊鋼の鋼質並びにこれが加工法の研究に従事、終戦後、鉄道技術研究所技師、東京大学工学部冶金学科嘱託、日本大学講師を経て昭和22年7月日本鉄鋼会(現、日本鉄鋼連盟)調査部技術課勤務、昭和29年10月日本鉄鋼連盟調査局技術課長となり今日に至っている。

日本鉄鋼会並びに日本鉄鋼連盟においては業界事情調査、工業規格の確立、研究部会の運営に尽力した。終戦

後の混乱期に規格改訂の要望が大きい時当局と業界の連絡調整に当り鉄鋼に関する規格の制定に寄与した。

また日本鉄鋼協会研究部会においては特殊鋼を初めとし、鋳鉄、製鋼、鋼材、鋳物、潤滑、熱経済技術の各部会総ての幹事として中心となつて活躍し、又製鋼、鋼材鋳物、熱経済各部会の報告書の刊行に努力し、業界内の技術交流に尽した。

以上の如く君の特殊鋼の技術向上に対する功績は多大である。よつて同君は日本特殊鋼株式会社寄贈資金取扱規則第5条により渡辺賞金を受ける資格充分なるものと認めらる。

## 渡 辺 賞 金 受 領 者

(特殊鋼鍛造技術の改良)

日本特殊鋼株式会社蒲田工場長代理兼作業係長

工学士 小野 一男君

君は昭和18年10月東京工業大学金属工学科を卒業後直ちに日本特殊鋼株式会社に入社、同年12月陸軍航空技術中尉として航空本部及び軍需省に勤務し、戦後同社に復帰、昭和27年7月蒲田工場長兼作業係長に任ぜられ、今日に至っている。

この間同社にあつて、特殊鋼の型打鍛造において、作業工程の時間研究による合理化並びに品質管理の応用により寸度、材質の改良、歩留の向上を実現した。また蒸気タービンに使用される 13 Cr 不銹鋼の翼材の型打鍛造法を改善して仕上代の極めて小さい精密鍛造品を製造し自動車部品の中特に歯車粗材の鍛造方式の改良により完全なファイバーフローを与え、優秀な鍛造品を製作している。また昨年は LCN 155 を用いて極めて困難な形状寸法を有する翼材を殆んど機械加工を要しない程度の精密鍛造品として製作した。

以上の如く同君の特殊鋼鍛造の実地作業、技術の改良、発達に対する貢献は多大である。

よつて同君は日本特殊鋼株式会社寄贈資金取扱規則第5条により渡辺賞金を受ける資格充分なるものと認めらる。



昭和 29 年度 (昭和29年3月1日より 昭和30年2月28日まで) 日本鉄鋼協会々務及会計報告

会 務 報 告

I. 会 議

本会運営上の会議を次の通り開催した。

1. 第 39 回通常総会 昭和 29 年 4 月 3 日

- 議事 (1) 理事の選挙
- (2) 評議員の選挙
- (3) 昭和 28 年度会務報告
- (4) 昭和 28 年度決算報告
- (5) 昭和 29 年度決算報告

2. 評議員会

第 1 回評議員会 昭和 29 年 5 月 20 日

(文書を以つて賛否問合せによる)

議事 (1) 理事の補欠選挙

(2) 評議員の補欠選挙

第 2 回評議員会 昭和 30 年 2 月 18 日

議事 (1) 監事の選挙

(2) 改選評議員候補者の推薦

(3) 昭和 29 年度会務報告の審査

(4) 昭和 29 年度決算の審査

(5) 昭和 30 年度予算の審議

(6) 服部賞, 香村賞, 俵賞, 渡辺賞各受賞者の決定

(7) 40周年記念表彰者の決定

(8) 名誉会員の推薦

(9) 俵博士記念資金取扱規則一部改正の件

(10) 評議員会の権限中一部理事会に委任の件

3. 理事会: 毎月1回, 臨時1回, 計 13 回開催  
毎月の事務並びに会計事項の審議, その他一般会務を協議決定した。

4. 編集委員会: 毎月1回, 臨時1回, 計 13 回開催  
会誌の編集方針, 企画, 掲載論文の選定, 技術資料の蒐集, その他会誌編集に関する一切の事務を協議決定した。

II. 会 員

本年度において次の通り会員の異動があつた。

異 動	会 員 別	維 持 会 員		賛助会員	正 会 員	学 生 会 員	合 計	団 体 組 織 数	
		名 誉 会 員	員 数						口 数
昭和29年2月28日現在		9	128	623	42	4,842	227	5,248	66
入 会		+	14	+	123	+	51	+	298
退 会		-	11	-	72	-	9	-	508
死 去							1		6
住 所 不 明							6		19
復 活								+	20
転 格		-	2	-	2		47		
昭和30年2月28日現在		9	129	672	41	4,639	215	5,033	69

III. 役員及び委員

本年度において次の通り役員及び委員の異動があつ

た。

1. 理 事

昭和 29 年 4 月 3 日の通常総会において理事の改選を行い, 次の通り選任就任した。

芥川 武, 浅田 謙, 河上 益夫, 菊池 浩介  
沢村 宏, 俵 信次, 蜂谷 茂雄, 三井 太佑  
山内 二郎

同日理事の互選により次の通り選任, 就任した。

会長 沢村 宏, 副会長 蜂谷 茂雄

昭和 29 年 4 月 30 日理事菊池浩介辞任

昭和 29 年 5 月 20 日評議員会において補欠選挙を行い, 入 一二選任, 就任した。

2. 監 事

昭和 29 年 2 月 18 日評議員会において監事 1 名の改選を行い, 石原善雄選任, 就任した。

3. 評 議 員

昭和 29 年 4 月 3 日の通常総会において評議員の半数改選を行い, 次の通り選任, 就任した。

浅輪 三郎, 新谷 哲二, 網谷 俊平, 有光 次郎  
井村 荒喜, 岩瀬 慶三, 生悦住貞太郎, 岩井雄二郎  
石田 四郎, 石原寅次郎, 石原米太郎, 内川 悟  
大塚 誠之, 大原 久之, 荻野 一, 金森 九郎  
河田 重, 木村幸次郎, 菊田多利男, 久保田 豊  
栗本 順三, 黒田 泰造, 越 達三, 小平 敏雄  
小林佐三郎, 佐野 幸吉, 酒井 佐敏, 寒川恒一郎  
塩沢 正一, 島田 顕三, 園田 一夫, 田中 国雄  
田中 徳松, 高尾善一郎, 武田 修三, 谷口 光平  
谷村 熙, 富山英太郎, 中山 育雄, 西山弥太郎  
羽塚 広道, 原田猪八郎, 平世 将一, 藤川 一秋  
藤村 哲之, 宮代 彰, 村上武次郎, 森 竜郎  
矢野 範二, 湯川 正夫

昭和 29 年 5 月 20 日の評議員会において評議員補欠選挙を行い, 次の通り選任就任した。

池ヶ谷頼緒, 大谷米太郎, 菊池浩介

4. 常務委員

前常任委員任期満了により昭和29年4月8日次の通り依嘱した。

伊木 常世, 岡本 正三, 五弓 勇雄, 近藤 八三  
佐藤 忠雄, 俵 隆治, 西村吉太郎, 橋口 隆吉  
毛利猷三郎, 横山 均次, 吉崎 鴻造

#### 5. 研究部会長

前研究部会長任期満了により昭和29年4月8日次の通り依嘱した。

浅田 謙 (鉄鉄) 蜂谷茂雄 (製鋼) 内川 悟 (鋼材)  
菊池浩介 (鋳物) 石原善雄 (特殊鋼) 山岡 武 (熱経  
済技術) 山岡 武 (鉄鋼品質管理) 殿村秀雄 (潤滑)

#### 6. 編集委員

前編集委員任期満了により昭和29年4月8日次の通り依嘱した。

池田 義孝, 内山 道良, 沢 繁樹, 辻畑 敬治  
長谷川正義, 浜本甲子生, 松下 幸雄, 三橋鉄太郎  
森永 孝三, 安田 洋一, 山木 正義, 吉田 道一

### IV. 事業

本年度における事業の概要次の通り。

#### 1. 会誌

「鉄と鋼」第40年第2号より第41年第2号まで13冊発行, 41年第1号より表紙の更新, 発行日の繰上げ, 内容の改善等を行った。

#### 2. 刊行物

会員名簿

Tetsu to Hagane abstracts No. 2 (1952)

鉄鋼便覧

鋼の熱処理と作業標準 (増補第3版)

熱経済技術要覧 (計測論)

加熱炉の設計と実際

鋼塊用鋳型に関する研究

鋼材圧延用ロールに関する研究

鋼材圧延の研究 (第1巻, 第2巻, 第3巻)

#### 3. 研究部会

鉄鉄部会, 製鋼部会, 鋼材部会, 特殊鋼部会, 鋳物部会, 熱経済技術部会, 潤滑部会, 鉄鋼品質管理部会に分れ, 各部会は又それぞれ分科会又は小委員会を設けて, 担当の研究事項について活発なる調査研究を行った。なお研究部会の活動を一層活発ならしめるため, 通商産業省重工業局, 日本鉄鋼連盟とはかり, 三者を以つて新に鉄鋼技術共同研究会を設け, 各研究部会はその下に入つて研究を強力に推進することとなつた。

#### 4. 翻訳委員会

“Making, Shaping and Treating of Steel, U.S. Steel” 翻訳のため委員会を設け, 目下刊行準備中。

#### 5. 熱処理と作業標準改編委員会

“熱処理と作業標準” を改編のため委員会を設け目下刊行準備中。

#### 6. 工業標準原案作成委員会

工業技術院長よりの委託に基き, 下記の委員会を設け調査研究中。

フェライト結晶粒度判定方法原案作成委員会

砂疵による鋼品位判定方法原案作成委員会

非金属介在物判定方法原案作成委員会

#### 7. 講演会, 見学会及び討論会

##### (1) 春季講演大会

講演会 昭和29年4月3日, 4日 早稲田大学理工学部において開催。

講演数 117 参加人員 600

見学会 昭和29年4月5日, 6日

見学工場数 27 参加人員 延 849

##### (2) 秋季講演大会

講演会 昭和29年10月15日, 16日 高岡市富山大学工学部において開催。

講演数 77 特別講演 2 参加人員 400

見学会 昭和29年10月18日, 19日

工場数 25 参加人員 延 350

##### (3) 品質管理討論会

昭和29年11月23日~27日 東京大学工学部において, 日本科学技術連盟他 17 団体と共催。

鉄鋼関係講演数 22

##### (4) 塑性加工講演会

昭和29年10月28日~29日 日本交通協会において日本機械学会外4団体と共催。

#### 8. 表彰

昭和29年4月3日通常総会において表彰式を行い, 下記の通り表彰した。

服部賞牌 島村 哲夫

服部賞金 黒田 隆之, 寺田 二郎, 倉富 東

香村賞牌 山内 二郎

香村賞金 岡本 孝, 守川喜久雄

俵 賞 河井 泰治, 井上 陸雄, 小川 楠雄

武田 喜三

渡辺賞牌 今井勇之進

渡辺賞金 須賀 利一, 木下 享

#### 9. 鉄鋼標準試料の頒布

従来に引続き, 八幡製鉄株式会社の製造に係る鉄鋼標準試料の頒布を行つたが, 近來その需要が頗る増加したに拘らず製造が之に伴わず需要に應ずることが困難となつたので, 鉄鋼標準試料委員会を設け, これが対策を研究中。

#### 10. 対外関係

英文 Tetsu to Hagane Abstracts No. 2 (1952) を発行し, 米, 英, 仏, 独, 瑞典, ポーランド, スペイン, ノルウエー, カナダ, インド, インドネシア, その他の海外諸国の鉄鋼関係学協会, 大学, 図書館, 研究所, 会社, 商社等に寄贈し, 技術の紹介, 交流に資した, なお abstracts No. 3 (1953) は目下刊行準備中。

米, 英, 仏, 独, インド, インドネシアその他の諸国の鉄鋼会社その他の諸団体と会誌その他の印刷物の交換をしている。又 abstracts 所載論文の原文翻訳の依頼等取引の紹介その他の照会幹旋多きを加えたが, これらに対し夫々回答を發し彼我の意思疏通, 技術の交流に努めた。

印度金属学会の招請に應じ, 30年1月開催の同学会第8次大会に下記5名の本会々員が渡印出席した。

井上 誠, 小野田武夫, 里井孝三郎, 巽 良夫

林 敏

#### IV. 地方支部

北海道支部，東北支部，北陸支部，関西支部，九州支部の各地方支部においても，夫々講演会，見学会，研究会，講習会等を開催した。

#### V. 官庁事項

1. 昭和 29 年 3 月 20 日工業技術院長より委託に係る鋼の焼入性試験方法の工業標準原案調査報告書及び鋼の結晶粒度判定方法の工業標準原案調査報告書を同院長に提出。

2. 昭和 29 年 4 月 28 日沢村理事池 8 理事の就任登記申請書及び資産総額に関する登記変更申請書を東京法務局日本橋出張所に提出。

3. 昭和 29 年 4 月 26 日，昭和 28 年度会務報告，収支決算書，昭和 29 年予算書，第 39 回通常総会決議録報告を文部大臣に提出。

4. 昭和 29 年 6 月 29 日工業技術院長より非金属介在物による鋼品位判定方法工業標準原案作成の委託を受く。

5. 昭和 29 年 7 月 27 日入理事の就任登記申請書を東京法務局日本橋出張所に提出。

6. 昭和 29 年 11 月 17 日工業技術院長より鋼のフェライト結晶粒度判定方法工業標準原案作成の委託を受く。

7. 昭和 29 年 11 月 29 日工業技術院長より砂疵による鋼品位判定方法工業標準原案作成の委託を受く。

(658 頁よりつづく)

#### 神戸製鋼所の鍛造新装置

神戸製鋼所では一昨年フランスの鍛造メーカー，カンパニー，デ・フォルシュ，エ・アシュリ，ド・ラ・マリヌ，エ・ド・サン・エティエンヌ社と技術提携し，わが国ではじめてという R.R. 鍛造装置を製作していたが，この程完成した。この R.R. 法による装置は同社高砂工場の 5,000 トンプレスに直結稼働するようになっており，従来の自由鍛造方法と異つて型打ち鍛造をプレスの力で行うので，注水量が纏まれば型代を除き生産コストは従来の約半分になり，又その上靱性が高いので強度は 3 割方高くなるといわれ関係方面から注目されている。

#### コークス比の新記録

八幡製鉄所東田第 6 高炉の 3 月中のコークス比は 0.620 で昨年 11 月洞岡第 4 高炉がたたえた 0.635 をさらに上回る成績を収めた。これは国内は勿論外国にもない珍しい記録で，その後も 0.600 台を安定して出している。この原因としては (1) 原料の事前処理がよくなったこと，(2) インド鉱石を使用して品位をあげたこと，(3) 焼結工場の生産能力に応じて焼結鉱を増加したこと，(4) 操業上細部の点まで調整するよう気を配つたこと，(5) 与えられた原料を計画的に処理したことなどが挙げられている。

なお同高炉の過去の記録は，昨年 9, 10, 11 月の 3 カ月を通じ 0.644 であつた。

材質・作業能率の飛躍的向上に!

## ニガタのミ-ハナイトメタル

種類 一般機械用 (Gタイプ) 耐蝕用 (Cタイプ)  
耐熱用 (Hタイプ) 粒状黒鉛 (GSタイプ)  
耐磨耗用 (Wタイプ)

#### 特長

- a. 強度，靱性及び剛性が特に高い
- b. 耐磨耗性振動吸収能及び切欠抵抗性が大きい
- c. 鍛造後の変形，経年変形が少い
- d. 機械加工性が良好で，精密仕上が可能



株式  
会社

新潟鐵工所

本社 東京都千代田区九段一-6 電話(33)8331・8491  
支社 大阪・新潟 営業所 名古屋・札幌・下関

ミ-ハナイト  
製造工場



新潟製鋼工場 電話 61.21~8  
(新潟支社内)



浦田鑄造工場 電話 (73) 2131